



2024年度

学生募集要項

高 野 山 大 学 大 学 院
文学研究科修士課程密教学専攻
(通 信 教 育 課 程)

高 野 山 大 学

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385
Tel.0736(56)2921代 (入学願書受付係)

目 次

I 正科生

1. 募集人員等	1
2. 出願期間・選抜試験日・合格発表・手続期間	1
3. 出願資格	1
4. 出願書類	2・3
5. 出願方法	4
6. 選考方法	4
7. 入学手続書類	4
8. 入学検定料	5
9. 新入生学費・諸経費	5
10. 日本学生支援機構	6

II 科目等履修生

1. 募集人員等	7
2. 提出期間・選考結果・納入期限	7
3. 出願資格	7
4. 出願書類	8
5. 出願方法	8
6. 選考方法	8
7. 受講手続	9

III 開講科目等予定一覧

10

IV 科目と履修

1. 科目について	11
2. 授業形態について	11
3. 正科生の入学資格を取得する方法について	11

V 講義等の概要

12

VI その他の事項

1. 宿泊の申込み	16
2. 問い合わせおよび事務取扱い日	16

VII 高野山大学案内略図

17

VIII 個人情報の取扱について

18

高野山大学大学院文学研究科のアドミッション・ポリシー

文学研究科アドミッション・ポリシー(入学受入れ方針)

高野山大学大学院文学研究科は、以下のような入学者を求める。

高野山大学および大学院が規定する理念・目的・目標に共感する者。

密教・仏教の古典に学びながら自ら課題を設定して探求するための基礎的学力を備え、専門分野で積極的な研究を行う意思を持ち続ける者。

修士課程

○密教学専攻

【通信課程】

- ・密教学への興味を強く持つ者
- ・論理的な文章を書ける者

I 正 科 生

1. 募集人員等

大学院文学研究科修士課程密教学専攻(通信教育課程)正科生

学 期	募集定員	標準修業年限	備 考
4月入学	20名	2年	在籍期間は8年まで可能(休学期間含む)

2. 出願期間・選抜試験日・合格発表・手続期間

	一 次 選 考 出 願 期 間	一 次 選 考 合格発表日	二 次 選 考 日 (面 接)	二 次 選 考 合格発表日	入学手続期間	入学辞退期間
I 期 選 抜	2023年 7月14日(金) ～7月24日(月) 消印有効	8月24日(木)	9月23日(土)	9月29日(金)	9月29日(金) ～10月13日(金)	合格発表時 ～2024年 3月31日(日)
II 期 選 抜	2024年 1月8日(月) ～1月22日(月) 消印有効	2月1日(木)	2月24日(土)	3月1日(金)	3月1日(金) ～3月15日(金)	

※二次選考は一次選考合格者を対象とします。

3. 出願資格

以下の(1)～(6)のいずれかを満たし、なおかつ本学からの送付物を受け取れる日本国内の拠点を有する者

(1)大学を卒業した者または2024年3月卒業見込みの者

(2)学士の学位を有する者または2024年3月取得見込みの者

(3)外国において学校教育における16年の課程を修了した者、または2024年3月修了見込みの者

(4)文部科学大臣の指定した者

(5)大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を修了(または修了見込み)した者で、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(6)本大学院において、個別の入学資格審査に合格し、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳以上の者

※(5)(6)に該当する者は個別の入学資格審査を事前に行いますので、3ページの「B. 出願資格(5)(6)に該当する者」をよくお読みください。

※本学大学院通信教育課程の科目等履修生として4科目(密教入門、仏教要論Ⅰ、仏教要論Ⅱ、仏教要論Ⅲ)8単位を取得した者(以下、単位取得生)は出願資格(6)の入学資格審査に合格したものとみなします。ただし、2007年度までの科目等履修生については、密教学概論、密教史概説、弘法大師伝、仏教要論の12単位の取得をもって単位取得生とみなします。

4. 出願書類

A. 出願資格(1)～(4)に該当する者と単位取得生

必 要 書 類		注 意 事 項
入学願書 (一次選考志願票・二次選考受験票)		本学所定用紙(巻末用紙①)
履歴書		本学所定用紙に高等学校卒業からの学歴、その他学習歴、職歴を書いてください。科目等履修生として修学した方は必ず単位を取得した科目名を記入してください(巻末用紙②)。
課題論文	論 題	『綜芸種智院式並序』における空海の人材育成論について論じなさい。 ◎原典を読んで論じること。 ◎参照した資料・文献は注記すること。
	様 式	3,800字以上～4,000字以内(ワープロにて作成すること)。 40字×30行でA 4用紙にプリントアウトすること(感熱紙不可)。 提出する際は、糊付け・ホッチキス止めは不要です。
研究計画概要		本学所定用紙(巻末用紙③)
最終学校の卒業(見込)証明書		発行日より6ヶ月以内のもの。大学・大学院卒など。大学卒業(見込)以外の資格で出願する場合は、その資格を確認できる書類(単位取得生は在籍期間証明書)を提出。「卒業見込証明書」を提出の場合、後日離籍後の証明書を提出してください。 ◎結婚等により、出身大学発行の証明書の氏名と現在の氏名が異なる場合は旧氏名のままの証明書を提出してください。
最終学校の成績証明書 (単位を含む)		発行日より6ヶ月以内のもの。単位取得生は科目等履修生として取得した科目の成績証明書。 ただし成績証明書が入手できない場合は、成績通知書等をもって、これに代えることができます。 ◎成績が破棄されたなどの理由で、成績証明書の交付が受けられない場合は、成績保存期間終了を証明する書類(成績証明書が発行できない旨の証明書・様式任意)を提出してください。
写真2枚 (縦4cm×横3cm、カラー写真)		3ヶ月以内に撮影したものを志願票および受験票に貼り付けること。
返送用封筒		本学所定封筒(白色長3)に354円分の切手を貼り、出願者の住所・氏名・郵便番号を表記してください。 ※返信用封筒記載の宛先は国内に限ります(代理人可)。
入学検定料		20,000円(詳細は5ページ「7. 入学検定料」をご参照ください)

◎提出された書類は一切返却できません。

◎出願書類提出用封筒(グレー角2)に上記出願書類を封入して送付してください。

◎提出課題につきましては、一切質問にお答えできません。

◎日本語以外の言語で作成された証明書や資料等には、志願者以外の者による日本語の翻訳文を添付してください。なお、翻訳文には翻訳者の氏名や連絡先の記入および捺印(サイン)が必要です。証明書の発行機関、翻訳会社または資格を持つ翻訳者による翻訳のみを認めます。

B. 出願資格(5)(6)に該当する者

①個別の入学資格審査について

下記の日程で事前に入学資格審査を行いますので、出願資格(5)(6)に該当する者は必ずこの期間に申し出てください。

＜申出期間＞

I 期募集	2023年 6 月22日(木)～ 6 月29日(木) 必着
II 期募集	2023年10月31日(火)～11月13日(月) 必着

※一次選考出願開始日までに郵送で審査結果を通知します。

※入学資格認定通知書は2024年度本学大学院通信教育課程選抜のみに有効です。

＜資格審査提出書類＞

必 要 書 類	注 意 事 項
入学資格審査申請書	本学所定用紙 写真 1 枚貼付のこと(巻末用紙⑥)
履歴書	本学所定用紙に中学校卒業からの学歴、その他学習歴(本学の生涯学習講座等)、職歴を書いてください(巻末用紙②)。
資格審査論文(様式任意)	論文は次の①・②の内、一問を選択し、2,800～3,000字で論じなさい。 ①あなたが仏教あるいは密教に期待するもの ②現代社会における宗教の役割とは (手 書 き)黒または青ボールペンを使用し、A 4 サイズの400字詰め原稿用紙(市販)に記入すること。 (ワープロ)40字×30行でA 4 用紙にプリントアウトすること(感熱紙不可)。 提出する際は、糊付け・ホッチキス止めは不要です。
出身学校の卒業証明書 もしくは在学期間証明書	発行日より 6 ヶ月以内のもの
成績証明書 もしくは単位取得証明書	成績証明書もしくは単位取得証明書が用意できない場合、成績通知書等(発行日より 6 ヶ月以内のもの)をもってこれに代えることができます。なお、出身学校の都合によりこれらの書類が提出できない場合、その旨を証明する文書を提出してください。



②審査合格した場合の出願書類(提出期間は 1 ページ参照)

必 要 書 類	注 意 事 項
入学願書 (一次選考志願票・二次選考受験票)	本学所定用紙(巻末用紙①)
課題論文	2 ページ参照
入学資格事前審査結果通知書	本学発行のもの
研究計画概要	本学所定用紙(巻末用紙③)
写真 2 枚 (縦 4 cm×横 3 cm、カラー写真)	3 ヶ月以内に撮影したものを志願票および受験票に貼り付けること。
返送用封筒	本学所定の封筒に、354円分の切手を貼り、出願者の住所・氏名・郵便番号を表記してください。
入学検定料	20,000円(詳細は 5 ページ「7. 入学検定料」をご参照ください)

※履歴書、卒業証明書(もしくは在学期間証明書)、成績証明書(もしくは単位取得証明書)は再提出の必要はありません。

5. 出願方法

- ・二次選考受験票は、本学所定の受験票返送用封筒で送付します。
- ・出願書類に不備がある場合は、受け付けることができません。
- ・一旦受理した入学検定料および出願書類は、理由のいかんを問わず返還しません。
- ・出願書類・入学検定料(普通為替もしくは定額小為替の場合)を、本学所定の出願用封筒に一括封入して、下記まで書留速達で郵送してください。

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385

高野山大学通信教育課程入学願書受付係

※窓口での出願も受け付けています(平日9:00～17:00、土・日・祝日をのぞく)。

〈一次選考結果の発表〉

本人宛に以下のものを発送します。

合 格 者 (1)合格通知書 (2)二次選考受験票 (3)諸注意事項 (4)受験料領収書

不合格者 (1)不合格通知書 (2)受験料領収書

〈二次選考結果の発表〉

本人宛に以下のものを発送します。

合 格 者 (1)合格通知書 (2)入学手続書類(次項参照)

不合格者 不合格通知書

6. 選考方法

一次選考は出願書類により総合的に選考を行います。特に「課題論文」、「研究計画概要」を重視します。

7. 入学手続書類

入学手続書類には以下のものがあります。合格された方には(1)～(8)を合格通知書と共にお送りします。

(1)入学手続要項

(2)振込用紙

※(3)預金口座振替依頼書

(4)通信教育規程、大学院学則

※(5)在学誓書・保証人誓書

※(6)学生調査票(裏面に健康診断調書有)

(7)返送用封筒(角2)

※(8)長期履修願(該当者のみ提出)

※(9)戸籍抄本または住民票等の本人の氏名・生年月日・性別・本籍地を記載した証明書(入学手続者が用意)

・外国籍の場合は在留カードの写しを提出。

・未取得の場合は在留カード取得後すみやかにその写しを提出してください。

在留資格によって在留カードが交付されない場合は、パスポートの上陸許可の証印が貼付されているページの写しを提出してください。

※(10)写真1枚(縦4cm×横3cmのカラー写真、3ヵ月以内に撮影したもので、裏面に必ず氏名を記入すること貼付不要、入学手続者が用意)

※(11)卒業証明書(出願時に卒業見込証明書を提出した方のみ提出、入学手続者が用意し、入手でき次第提出)

※の書類を(7)返送用封筒に入れて各入学手続期間内(1頁参照)に提出してください。

(提出書類に不備、抜けが無いようご確認ください)

8. 入学検定料

入学検定料のお支払いは、出願と同時に以下のいずれかにてお願いします。

- ・郵便局の普通為替もしくは定額小為替
- ・ゆうちょ銀行へのお振込み

※普通為替もしくは定額小為替の場合、受取人氏名・住所は記入しないでください。

ゆうちょ銀行・郵便局のお振込み先

〈ゆうちょ銀行もしくは郵便局からのお振込みの場合〉

・口座記号番号：00960-2-18049

・口座名義：高野山大学(コウヤサンダイガク)

※お振込み時に①受験者氏名 ②「入学検定料」(P 9 科目等履修生合格の場合は「科目等履修料」) ③通信課程を必ずご記入ください。

※出願書類到着時にお支払いが確認できない場合は、出願受付できませんのでご注意ください。

〈ゆうちょ銀行以外からのお振込みの場合〉

・銀行名：ゆうちょ銀行 ・金融機関コード：9900

・店名：〇九九店 ・店番：099 ・預金種目：当座

・口座番号：0018049 ・口座名義：高野山大学(コウヤサンダイガク)

※お振込み時に受験者氏名を必ずご記入ください。

※出願書類到着時にお支払いが確認できない場合は、出願受付できませんのでご注意ください。

9. 新入生学費・諸経費

〈学 費〉

年 次	区分	学費項目	金 額	備 考
1 年次	前期	入学金	100,000円	初年度前期の学費納入期限は 2 次選考合格発表時～ Ⅰ期選抜10月13日(金)／Ⅱ期選抜 3 月15日(金)
		授業料	190,000円	
	後期	授業料	190,000円	10月下旬に引き落とし予定
2 年次	前期	同 上	190,000円	4 月下旬に引き落とし予定
	後期		190,000円	10月下旬に引き落とし予定
3 年以上*	前期	在籍料	50,000円	4 月下旬に引き落とし予定
	後期		50,000円	10月下旬に引き落とし予定

※ 3 年以上、つまり標準修業年限経過後は、授業料にかわる在籍料のみを納付していただくこととなります。

ご不明な点は、法人本部経理係(0736-56-2922)にお問い合わせください。

なお、上記学費以外に、必要な諸経費は次のとおりです。

〈諸経費〉

学費項目	金 額	備 考
スクーリング登録料	10,000円	1 科目につき。SR・TS履修科目の場合、スクーリング実施約 1 ヶ月前にスクーリング登録料が発生します。
修士論文審査料	10,000円	修士論文提出時に必要です。
同窓会費	3,000円	年額(同窓会の依頼による代理徴収)

※入学辞退について

入学辞退は、合格発表日から2024年 3 月31日(日)までに総務課(0736-56-2922)へ申し出てください。納入した学費及び諸経費の内、入学金を除いた金額を返還します。

10. 日本学生支援機構

日本学生支援機構の貸与奨学金の申込みが可能です。

希望する方は4月1日～4月25日の期間に学務課学生サポート係にお問い合わせください。

①第一種奨学金（月額）50,000円、88,000円より選択〔無利息〕

②第二種奨学金（月額）5万、8万、10万、13万、15万円より選択〔利息付〕

※上記の奨学金額は、令和4年度の実績であり、変更される場合があります。

【その他の注意事項】

◆中国の大学または大学院を卒業(修了)した方へ

中国の大学等の卒業事実について、「中国高等教育学生信息网(CHSI)」から発行される英文で記載された学生認証報告の原本を提出してください。

Ⅱ 科目等履修生

1. 募集人員等

学修開始時期	募集定員	履修期間
4 月	100名	1 年

2. 提出期間・選考結果・納入期限

	書類提出期間	選考結果通知日(書類審査)	受講料納入期限
春季募集	2024年 1月15日(月) ～2月15日(休) 消印有効	2024年3月1日(金)までに本人へ通知	選考結果通知到着日～10日以内

※選考結果は郵送により通知します。なお、必要に応じて面接試験をすることがあります。
この場合に限り、面接試験日を通知します。

3. 出願資格

以下の(1)～(6)のいずれかを満たし、なおかつ本学からの送付物を受け取れる日本国内の拠点を有する者

(1)大学を卒業した者または2024年3月卒業見込みの者

(2)学士の学位を有する者または2024年3月取得見込みの者

(3)外国において学校教育における16年の課程を修了した者または2024年3月修了見込みの者

(4)文部科学大臣の指定した者

(5)大学に3年以上在学し、または外国において学校教育における15年の課程を修了(または修了見込み)した者で、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(6)本大学院において、個別の入学資格審査に合格し、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳以上の者

※(6)には高等学校を卒業して22歳に達している方を含みます。

4. 出願書類 ◎本学の卒業生(学部、大学院)は、卒業証明書および成績証明書は不要です。

必 要 書 類	注 意 事 項
科目等履修生願	本学所定用紙(巻末用紙④) 保証人1名必要(成人で独立して生計を営んでいる者、もしくは家族でも可)。 裏面に出願理由を明記してください。
受講希望科目一覧	本学所定用紙(巻末用紙⑤) 10～15ページを参照の上、希望科目を選んでください。
履歴書 ※	本学所定用紙(巻末用紙②) 高等学校卒業からの学歴、その他学習歴(本学の生涯学習講座等)、職歴を記入してください。
卒業証明書 ※	発行日より6ヶ月以内のもの。 最終学校発行のもの(見込みの場合は見込証明書)。 ◎結婚等により、出身大学発行の証明書の氏名と現在の氏名が異なる場合は旧氏名のままの証明書を提出してください。
成績証明書(単位を含む) ※	発行日より6ヶ月以内のもの。 最終学校発行のもの。ただし、成績証明書が入手できない場合は、成績通知書等をもって、これに代えることができます。 ◎成績が破棄されたなどの理由で、成績証明書の交付が受けられない場合は、成績保存期間終了を証明する書類(成績証明書が発行できない旨の証明書・様式任意)を提出してください。
写真1枚 (縦4cm×横3cmカラー写真)	3ヶ月以内に撮影したもの。科目等履修生願に貼付。
返送用封筒	本学所定封筒(白色長3)に必ず返信用切手(354円分)を貼り、出願者の郵便番号、住所、氏名を表記したもの。 ◎返信用封筒記載の宛先は国内に限ります(代理人可)。
検定料 ※	10,000円(詳細は5ページ「7. 入学検定料」をご参照ください)

◎提出された書類は一切返却できません。

◎出願書類提出用封筒(グレー角2)に上記出願書類を封入して送付してください。※印に関しては、今期に正科生を受験して不合格になった方、及び前年から引き続き科目等履修生を希望する方は不要です。

◎日本語以外の言語で作成された証明書や資料等には、志願者以外の者による日本語の翻訳文を添付してください。なお、翻訳文には翻訳者の氏名や連絡先の記入および捺印(サイン)が必要です。証明書の発行機関、翻訳会社または資格を持つ翻訳者による翻訳のみを認めます。

5. 出願方法

- ・上記の出願書類・検定料(普通為替もしくは定額小為替の場合)を本学所定の出願用封筒に一括封入して、下記まで書留速達で郵送してください。
- ・出願書類に不備がある場合は、受け付けることができません。
- ・一旦受理した検定料および出願書類は、理由のいかんを問わず返還しません。

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385

高野山大学通信教育課程入学願書受付係

※窓口での出願も受け付けています(9:00～17:00、土・日・祝日をのぞく)。

6. 選考方法

新規の方は出願理由を含め提出された書類により選考を行います。前年度から引き続き希望する方は前年度の単位修得等学修状況および提出された書類により総合的に選考を行います。

7. 受講手続

〈本学からの送付物〉

科目等履修生として受講が許可された方には、次の書類を送付します。

- (1)科目等履修生可否通知書
- (2)履修登録確認票
- (3)返信用封筒(白色長3)
- (4)検定料領収書
- (5)払込取扱票

選考結果通知日より10日以内に受講科目届記載の科目等履修料を普通為替又はゆうちょ銀行口座への振込で納入してください。

なお、履修形態がSR・TSの科目については科目等履修料に加えてスクーリング登録料(下記)が発生します。スクーリング登録料は、スクーリング実施約1ヶ月前に別途請求いたします。

※普通為替は最寄りの郵便局窓口で購入してください。

※ゆうちょ銀行の振込先は、5ページに記載しています。

※(5)払込取扱票は科目等履修料の合計が10万円を越えた方のみ同封しています。こちらをお使いいただいてもかまいません。

科目等履修料 (普通為替又はゆうちょ銀行口座への振込)

学費項目	金 額	備 考
科目等履修料	15,000円～	15,000円(1単位)×総受講単位数

スクーリング登録料 (普通為替もしくは定額小為替又はゆうちょ銀行口座への振込)

学費項目	金 額	備 考
1科目につき	10,000円	10,000円(1科目)×科目数

〈本学への送付物〉

本学所定の書類提出用封筒に84円切手を貼付し、次の書類を本学宛送付してください。

- (1)履修登録確認票(本学提出用)
- (2)受講料(普通為替)

※ゆうちょ銀行・郵便局へ振込された方は(1)のみを送付してください。

〈必要経費の例〉

密教学概論の場合

15,000円×4単位=60,000円(科目等履修料)

遍路実習Ⅰの場合

15,000円×1単位=15,000円(")

密教学演習Ⅲ(密教瞑想法)の場合

15,000円×2単位=30,000円(")

10,000円×1科目=10,000円(スクーリング登録料)

合計 40,000円

Ⅲ 開講科目等予定一覧(2024年度)

	コード	授業科目の名称	担当予定教員	履修形態	単位	備 考
授 業 科 目 の 概 要	主 要 科 目	30001 密教学概論	松 長 潤 慶	T R	4	
		30002 密教史概説	佐 藤 隆 彦	T R	4	
		30003 弘法大師伝	櫻 木 潤	T R	2	
		30004 密教学特別演習		G	2	正科生のみ
	基 礎 科 目	32001 密教入門	土 居 夏 樹	T R	2	
		32002 仏教要論Ⅰ(仏陀の伝記)	前 谷 彰	T R	2	
		32003 仏教要論Ⅱ(初期仏教入門)	前 谷 彰	T R	2	
		32004 仏教要論Ⅲ(大乘仏教思想入門)	室 寺 義 仁	T R	2	
	授 業 科 目 の 概 要 関 連 科 目	31001 密教学特殊研究Ⅰ(空海の思想)	川 崎 一 洋	T R	2	
		31136 密教学特殊研究Ⅱ(密教と大乘仏教思想)	休 講	S R	2	
		31003 密教学特殊研究Ⅲ(密教の典籍)	乾 龍 仁	T R	2	
		31004 密教学特殊研究Ⅳ(真言教学の諸問題)	北 川 真 寛	T R	2	
		31137 密教学特殊研究Ⅴ(仏教美術入門)	休 講	S R	2	
		31138 密教学特殊研究Ⅵ(スピリチュアルケアと援助論)	森 崎 雅 好	S R	2	
		31007 密教学特殊研究Ⅶ(密教と現代)	休 講	T R	2	
		31008 密教学特殊研究Ⅷ(密教と異宗教)	休 講	S R	2	
		31009 密教史特殊研究Ⅰ(高野山学)	山 陰 加春夫	T R	2	
		31010 密教史特殊研究Ⅱ(真言密教の系譜)	武 内 孝 善	T R	2	
		31011 密教学演習Ⅰ(曼荼羅の研究)	田 中 公 明	S R	2	
		31012 密教学演習Ⅱ(秘密事相)	佐 藤 隆 彦	S R	2	
		31013 密教学演習Ⅲ(密教瞑想法)	佐 藤 隆 彦	S R	2	
		31114 空海の著作を読むⅠ(般若心経秘鍵)	T.ドライトライン	T R	2	
		31115 空海の著作を読むⅡ(高野雑筆集)	武 内 孝 善	T R	2	
		31116 空海の著作を読むⅢ(三教指帰)	南 昌 宏	T R	2	
		31117 空海の著作を読むⅣ(即身成仏義)	北 原 裕 全	T R	2	
		31134 空海の著作を読むⅤ(辯顕密二教論)	米 田 弘 仁	T R	2	
		31135 空海の著作を読むⅥ(菩提心論)	中 原 慈 良	T R	2	
		31018 遍路学	川 崎 一 洋	T R	2	
		31019 遍路実習Ⅰ	川 崎 一 洋	E R	1	
		31020 遍路実習Ⅱ	川 崎 一 洋	E R	2	
		31021 遍路実習Ⅲ	川 崎 一 洋	E R	4	
		31022 密教文化特殊研究Ⅰ(空海の書)	野 田 悟	T S	2	
		31023 密教文化特殊研究Ⅱ(空海論の現在)	奥 山 直 司	T R	2	
		31024 密教文化特殊研究Ⅲ(日本密教美術)	森 雅 秀	S R	2	
		31025 密教文化特殊研究Ⅳ(インド密教美術)	休 講	S R	2	
		31026 密教文化特殊研究Ⅴ(チベットの密教と文化)	奥 山 直 司	T R	2	
		31027 密教文化特殊研究Ⅵ(密教と説話文学)	溝 端 悠 朗	T R	2	
		31028 密教文化特殊研究Ⅶ(高野山の年中行事)	山 陰 加春夫	T R	2	
		31029 密教文化特殊研究Ⅷ(悉曇)	休 講	T S	2	
		31031 現代布教論	近 藤 堯 寛	S R	2	
		31032 寺院経営と法律	休 講	T R	2	

※2025年度に不開講となる科目がありますのでご注意ください。

※担当教員および授業科目は変更する場合があります。

Ⅳ 科目と履修

1. 科目について

〈正科生〉

正科生の修了要件は、本課程に2年以上在学し、主要科目12単位、密教入門を含む基礎科目4単位、関連科目14単位を含む合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて研究発表を行い修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格することとしています。

〈科目等履修生〉

科目等履修生は1年ごとの履修で、主要科目・基礎科目・関連科目に関わらず1科目から受講できますが、1年につき14単位を超える科目の受講はできません。

※正科生に合格した場合は、原則10単位を上限に単位認定を行います。ただし、遍路実習の単位認定は4単位が上限です。

2. 授業形態について

T R履修：レポートを提出し合格の後、科目最終試験(在宅レポート試験)を受ける形態

T S履修：レポートを提出し、合格の後スクーリングを受講し、最終日に科目最終試験を受け、評価を受ける形態

S R履修：スクーリングを受講し、定められた日までに科目最終試験(在宅レポート試験)を提出し、評価を受ける形態

E R履修：レポートと実習計画書を提出し、指導教員の許可を得て実習に臨む。実習後、実習日誌・朱印帳を提出し、科目最終試験(在宅レポート試験)を受ける形態

G履修：指導教員による修士論文の指導 ※G履修は正科生のみの受講となります

※スクーリング科目については、受講料に加えてスクーリング登録料が発生します。スクーリング登録料については、スクーリング実施約1ヶ月前に別途請求します。

※遍路実習の履修は正科生・科目等履修生ともに4単位を上限とします。

3. 正科生の入学資格を取得する方法について

高校卒業以上の学歴を有し、22歳に達した方は以下の①もしくは②の方法で正科生の出願資格を取得することができます(本学大学院通信教育課程にのみ有効)。これにより、正科生への出願が可能になります。

①個別の入学資格審査を受ける

申し込み方法は3頁を参照

②基礎科目の単位を修得する

科目等履修生として次の単位を修得する

基 礎 科 目			
密教入門	2単位	仏教要論Ⅱ(初期仏教入門)	2単位
仏教要論Ⅰ(仏陀の伝記)	2単位	仏教要論Ⅲ(大乘仏教思想入門)	2単位

V 講義等の概要

密教学概論

密教とは、インドにおいて大乘仏教が展開する過程の中から出現した仏教の最終形態である。インドにおける密教の形成と、そのアジア各地への伝播の過程についてまず概観する。さらに中国を経て日本で花開く真言密教の思想と実践を弘法大師空海の諸著作から概観し、その現代的意味を考えてみたい。

密教史概説

紀元前5世紀に釈尊によって説かれた仏教が、原始仏教、部派仏教、大乘仏教へと展開し、6世紀にいたり最後に花開いたのが密教であった。7世紀中葉には、中国・日本の密教において重要な位置をしめる『第日経』『初会金剛頂経』が成立し、8世紀はじめに相ついで中国に齋(もたら)され、やがて9世紀初頭、これら組織的な密教が空海によりわが国に請来された。その起りからインド・中国・日本、そしてチベットに展開した密教の歴史を概観する。

弘法大師伝

弘法大師空海が活躍した時代は、律令体制が整い、日本古代社会にとっての爛熟期にあたります。そうした世の中であって、唐にわたり、当時最新の密教を日本に伝えた空海は、伝教大師最澄と並んで、日本仏教の礎を築きました。近年、これまでの日本古代史像が再考されていますが、そうした流れの中で空海の生涯とその歴史的意義について再検討する必要があります。本講義では、空海の著作や当時の史料を通して弘法大師空海の生涯を考察し、日本社会や仏教の歴史に果たした影響を解明することを目指します。

密教入門

真言密教では古来より教相と事相を車の車輪、鳥の両翼に喩えてきた。教相とは教理すなわち思想に関するものをいい、事相とは密教の実践すなわち修行方法に関するものをいう。密教は教相と事相のどちらか一方を欠いても成り立たない。たとえば、密教の事相は大乘仏教の思想に基づいた教理的背景をもち、それによって成立しているのであるから、教相を知らずして事相は成り立たない。またその逆もしかりである。ここでは密教とは何かを考えながら、密教の修行論、密教の象徴主義、密教の仏陀論、密教の現実主義といった様々なテーマに沿って、その主要な思想や実践論等について総合的に学習する。

仏教要論Ⅰ(仏陀の伝記)

密教を学ぶ上で、仏教の知識が必要であることはいまでもない。仏教の基本がお釈迦さん、すなわちブッダにあることもまた言をまたない。弘法大師空海もおりにふれ〈わが師〉として親しく呼びかけておられる。しかし、なぜか日本ではそのブッダが各宗派のお祖師ほどには尊崇されていない。学問的には、インド以来、仏教徒は常にみずからの存在確認としてブッダの伝記にその正当性・正統性を求めてきたといえる。密教も決して例外ではない。さて、そのブッダの伝記も実はさまざまである。学問的に正しいといえる伝記があるのであるか。ブッダの伝記を扱うということはどういうことなのか。さまざまな伝記資料をあげながら、それを取り扱う学問的方法、姿勢にも言及し、ブッダ伝をめぐるさまざまな

伝承と信仰の一端を楽しみたい。

仏教要論Ⅱ(初期仏教入門)

テキストを用いて、釈尊(ゴータマ・ブッダ)が誕生してから大乘が興起するまでの歴史と思想的展開を概説します。まず、『ゴータマ・ブッダ』(テキスト)によって、釈尊が誕生してから入滅(涅槃に入る)までの歴史を概観し、釈尊がどのようにしてめざめ、そのめざめの内容とめざめに至るまでの方法論をどのようなことばで伝えたかについて講じます。次に、『「さとり」と「廻向」—大乘仏教の成立—』によって、釈尊入滅後、仏教教団が幾つもの派に分かれ、大乘化して行く過程を歴史的・思想的側面から追って行き、最終的には「大乘非仏説」の問題について考察することになります。

仏教要論Ⅲ(大乘仏教思想入門)

ブッダの教えに始まる仏教は、ブッダ「大般涅槃」後の数世紀を経て、西暦紀元前後の数世紀に亘り新たな「大乘仏教」運動として、古代インド文化圏において展開し始めた様である。本講では、大乘仏教徒にとっての理想像である「菩薩」が実践する仏道、すなわち「菩薩道」の理論的支柱となっている「空」の思想と、「唯識」の思想とを学習する。

密教学特殊研究Ⅰ(空海の思想)

弘法大師の思想については、古来、さまざまな角度から論じられており、現在もなお、盛んに論考が発表され続けています。この講義では、特に「弘法大師の靈魂観」と「弘法大師の言語観」を取り上げます。前者を考察することは、真言宗の僧侶が行う葬儀の意義を考える際のヒントとなり、後者を考察することは、大師の法身説法説や曼荼羅思想、延いては即身成仏の思想を捉える上での基礎となります。

密教学特殊研究Ⅱ(密教と大乘仏教思想)

仏教には、原始仏教、部派仏教、大乘仏教、密教とさまざまなものがあるが、密教が大乘仏教思想を取り入れつつ独自の仏教を形成していることは周知のことである。では大乘仏教思想とは、どのようなものなのであろうか。本講では、初めに大乘仏教の基礎的な世界観を提示している唯識思想について、その全体にわたって解説するとともに、その後、龍樹に発する中観派および中国以来の三論宗の思想、天台智顗による天台宗の思想、智儼・法蔵による華嚴宗の思想の特質について解説し、最後に密教と大乘仏教との共通の面と異なる面について、解明したいと考えている。

密教学特殊研究Ⅲ(密教の典籍)

インド密教の歴史的区分にしたがって、インドにおける密教の形成と展開の跡をたどりながら、代表的な密教経典の本文を取り上げて内容を解説する。その中では中期の密教経典である『大日経』『金剛頂経』『理趣経』が中心となる。

密教学特殊研究Ⅳ(真言教学の諸問題)

弘法大師空海によって確立された密教を真言密教といいます。空海は『辯顕密二教論』で法身説法・即身成仏・果分可説・教益の甚深によって真言教学の特徴に言及しました。さらにはその集大成とも称される『秘密曼荼羅

十住心論』を著わし、衆生本具の覚性〈浄菩提心〉が開顯される様を十住心思想として論じられると共に、密教を頂点として、空海当時の諸宗教をそれぞれの住心に配するという教判論を展開しました。爾来、空海の構築した真言密教について、真言宗徒はいうまでもなく真言宗以外からも様々な教学上の疑問が提示されることとなります。

密教学特殊研究Ⅴ(仏教美術入門)

仏教美術を鑑賞するには仏像の種類を覚えるだけでなく、仏教の歴史や教義、各地域の歴史などを知る必要があります。しかし、一見複雑に見える仏像の種類も釈迦の生涯に基づいて成立しており、統一された教義のもとに成立している。仏教美術は仏像以外にも、礼拝対象として舍利、聖遺物、経典、僧侶の像などがあり、さらに寺院建築、寺院を荘厳した道具、法要仏具、僧侶の生活用具などさまざまな分野にわたっている。仏教美術は世界の宗教美術と比較しても、歴史の長さ、作品の豊富さ、完成度の高さ、制作地域の広さなどの点で世界に誇る価値を有している。この授業では、釈迦の生涯と舍利信仰の成立から説き起こし、仏像の成立と伝播、日本での仏教美術の展開、そして仏像の種類と見分け方、仏具、神仏習合などについて講義する予定である。仏教美術鑑賞が楽しくなることは間違いない。

密教学特殊研究Ⅵ(スピリチュアルケアと援助論)

この講義では、スピリチュアルケアの視点に基づいた援助論について講義をします。スピリチュアルケアが提唱されるようになった背景には、死について真剣に向き合おうとする臨床現場からの要請があったためです。病気によって自身の死を意識するだけでなく、戦争、災害、大切な人を喪うといった重大な危機的体験によって、私たちは生きることそのものに意味を見出すことができず、死を考えざるを得ない状況に追い込まれることもあります。そこには、人生に対する悲しみと苦しみが重く深く横たわります。この講義では、仏教・密教の教えに触れながら、「ケアすること」について考えたいと思います。

密教学特殊研究Ⅶ(密教と現代)

近年、価値観の多様化、伝統的価値観の変容または喪失といった声を聞くことが多くなった。日本人の背骨が溶け始めたといった過激な見解も聞かれる。一国主義からグローバル社会への急速な変化のなかで、われわれは現代をどのように捉え、これから何を拠り所にして、どこを目指して行こうとするのか。その基盤となる価値観を何に求めるべきなのか。はたしてそのような価値観はあるのか。われわれは、密教とくに弘法大師空海がその指針を与えてくれると考える。この講義では、現代の文明と文化の諸相を取り上げながら、混迷の現代に向き合う生き方の糸口を仏教や空海から探してみたい。

密教学特殊研究Ⅷ(密教と異宗教)

近年、宗教間における対話が求められており、その試みは国際的に行われるようになってきている。日本仏教の諸宗派もその例外ではなく、禅宗や天台宗を始め、日本仏教各宗派は様々な形で宗教間の対話に携わっている。ちなみに、密教を求めて高野山を訪れ、修行に打ち込む外国人も増加している。以上のことから、本講義では定

着した異宗教の概念を分析し、宗教間の対話の可能性、またその限界を明らかにしたい。従って、宗派間の対立を乗り越えるために空海が進めた密教思想を基軸に、概念についての対話を超えて、心情的な談話に移りたい。すなわち、様々な宗教の無比の「共鳴」に注目しながら、宗教体験の観点から宗教間の対話について、改めて考える。グローバル化の時代潮流が要請する、宗教についての新しい「ことば」を生み出すにあたり、文化交流の地である高野山は大変ふさわしい場所であると思う。

密教史特殊研究Ⅰ(高野山学)

1932年に水原堯榮師は、日本文化史に寄与するためには、「高野精神の発現」たる高野山史・美術史・文学史・教理史・宗政史等々10部門を系統的に研究する必要があると説き、これらの総合的研究を「高野山学」と名付けた。本講義では、この水原師の提言を踏まえ、816年の開山以来、今日に至るまで、日本文化の一大発信地であり続けている高野山の歴史、信仰と生活の綾なす文化、人々の交流と移動等々を系統的に追求する。

密教史特殊研究Ⅱ(真言密教の系譜)

空海によって体系化された真言密教の展開過程を人物・寺院を中心に考察する。今日ある真言宗の基礎が確立されたのは、十世紀初頭の観賢の時代であった。それまでの真言教団は、空海の弟子・孫弟子たちが相ついで真言系寺院を建立したため、ともすればまとまりを欠く状況であったが、観賢は、一方で空海に「弘法大師」の諡号を賜わるとともに入定信仰の基盤を作り、また一方で東寺を本寺とする本末体制を創設して真言宗の一本化を図り、真言宗の基礎を確立した。なぜ、かくも多くの寺院が建立されたのか、各寺院の創立に関わった僧と檀越、および政治とのかかわりを通して、初期真言教団の構造を解明したい。

密教学演習Ⅰ(曼荼羅の研究)

弘法大師空海によってわが国に請来された両界曼荼羅の成立過程を解明するとともに、日本における独自の展開、チベット・ネパールに伝えられた後期密教の曼荼羅までを概観する。なお曼荼羅の講義では画像を見ることが必要になるので、講義は全回、パワーポイントを用いた形式とする。

密教学演習Ⅱ(秘密事相)

真言宗の僧侶となるために必須の修行である加行を受けるのに必要な、事相の基礎的な内容を身につけることを目的とする。具体的には、真言宗で用いられる法衣や袈裟の歴史とその意義。道場荘厳具の置き方やその象徴的意義や荘厳の仕方について講義を行う。特に、現地見学会や実習を行いたい。

密教学演習Ⅲ(密教瞑想法)

阿字観は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の観法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字観は在家の人でも修することができる。密教観法の一つである阿字観について『阿字観用心口決』とテキストとを併用しながら専門的な講義を行う。阿字観の実修も実際に行う。

空海の著作を読むⅠ(般若心経秘鍵)

『般若心経秘鍵』は弘法大師空海の最晩年(承和元年頃、834年頃)の著作である。『般若心経』を大乘仏教の『般若経』の要約とみる通説を退け、この経典を般若菩薩の悟りを説き明かした密教経典と見なす。さらにその中に南都六宗および天台宗の教えもことごとく含まれているとみる点、また『般若心経』のエッセンスは経末の呪文に集約されているとみる点など独自の見解を披瀝している。空海の到達した密教観の真髓(「密教とは何か?」)を知るためには、必読書といえるであろう。

空海の著作を読むⅡ(高野雑筆集)

空海の生涯を考えると根本史料の一つが空海の著作である。なかでも、空海の漢詩文を集成した『遍照發揮性靈集』十巻と空海の書簡を類聚した『高野雑筆集』上下二巻が重要である。特に後者は、常日ごろの空海を知ることができるまたとない史料であるとともに、平安仏教の形成過程を跡づけうる史料でもある。とはいえ、いつ書かれたのか、誰に宛てて出されたのか、が未解明のものが少なくない。したがって、これらの書状を空海伝・真言宗史として活用するには、今一度、いつ・誰に宛てて書かれたのかを再検討する必要がある。つまり、最初から一つ一つ丹念に読み、自ら判断することである。これらの作業を通して、優しい空海・厳しい空海など、その機微にふれることができよう。

空海の著作を読むⅢ(三教指帰)

「三教」とは儒教・道教・仏教のことを言う。これら三教を比較して優劣を論じることが、六朝から唐にかけての中国で盛んに行われていた。弘法大師空海の『三教指帰』は、中国の三教比較論に範をとりつつ、対話式の戯曲的構成をもって記されている。『三教指帰』は弘法大師が入唐留学から帰国した後、40代後半頃、『聾瞽指帰』に手入れをして書き直したものと考えられる。

空海の著作を読むⅣ(即身成仏義)

弘法大師空海和尚の教えをひと言でいうならば、即身成仏の思想ということが出来ます。空海に関する書物は、近年、数多く出版されており、それらを通して空海の唱えた理論を理解することが出来ます。しかしながら、真なる把握は空海和尚の原文に直接接することによってなされるものと考えます。慣れない仏教漢文に、初めの内は当惑されるかもしれませんが、学んでいかれる中で空海大師の声に触れられる出逢いもあると思います。

空海の著作を読むⅤ(辯顕密二教論)

『辯顕密二教論』は空海の思想を知る上で最も基本となる資料である。この書を必ず一読して、不可説果分の境界とは何か、密教における法身説法とは何か、ということを理解し、『即身成仏義』や『十住心論』に展開される即身成仏思想や曼荼羅思想を正しく理解するための一助としていただきたい。ただし、本講義は単に『二教論』という書物を読むにとどまるものではない。あくまでも目標は、この書を通じて、仏教漢文の読解力を養い、文献学における方法論の考え方を習得するということに定めおく。その学習は、学問としての研究をおこなう上で必要不可欠の知識と技術との習得であり、ここに大学院ならではの学業の醍醐味があるからである。通信教育という限られた場ではあるけれども、少しでもその片鱗

を味わっていただけるよう指導する所存である。

空海の著作を読むⅥ(菩提心論)

『菩提心論』は、龍猛菩薩造、不空三藏訳とされる『金剛頂瑜伽中発阿耨多羅三藐三菩提論』の略称であり、弘法大師空海の著作ではない。しかし、即身成仏思想や十住心思想、三昧耶戒など、空海が自ら請来した密教を説くに際して重要な役割を果たしている。さらに、空海は、真言密教を学ぶ者は本書を学ぶべきとしており(「三学録」「三業度人官符」)、真言宗では「十巻章」の一巻として必読の書としてきた。本講では、まず、下記のテキストによって、インド以来の菩提心思想の展開を概観し、実際に『菩提心論』を読むことを行う。次に、空海の著作における『菩提心論』の引用に着目して、空海の真言密教における『菩提心論』の影響について考察する。

遍路学

弘法大師・空海ゆかりの88ヶ所の霊場を巡る四国遍路。四国をぐるりと一周する「回遊型」として知られるこの巡礼を実践する人の数は、年間に10万人とも15万人ともいわれています。また現在、有形の文化財としての霊場寺院や遍路道、あるいは、四国の風土・人々のつながり・信仰などの要素によって培われてきた無形の「遍路文化」を、世界遺産に登録しようとする取り組みが進められています。この講義では、①歴史学や民俗学の立場から四国遍路の成立過程を検討し、併せて、②社会学や哲学の立場から「現代人はなぜ遍路するのか?」を考察します。

遍路実習Ⅰ

あえて一定期間日常を離れ、四国八十八ヶ所の一部を歩き遍路をすることは、いそがしい現代人にとって、貴重な機会ではなからうか。遍路実習Ⅰは遍路初心者が取りくみやすい科目である。自然に触れ、人に出会い、身体と向き合う数日間の遍路は、座学では得られない貴重な体験となるだろう。授業は事前学習、実習計画書の作成、遍路実習、科目最終試験からなり、担当教員の指導・助言が与えられる。学習の手引きを参照して無理のない行程を組むとよい。「遍路学」とあわせて受講することが望ましいが、先後は問わない。

遍路実習Ⅱ

一定期間日常を離れ、四国八十八ヶ所の一部を歩き遍路をすることで、座学では得られない、体験を通じた心身の覚醒を図ることを目的とするのが、遍路実習である。遍路実習Ⅱは実習時間を5日前後とする。遍路実習Ⅰに比べ、各自が計画する実習時間はより長くなる。これに伴う体験内容の深まりが、遍路で出会う様々な事象への観察力をより高めてくれよう。「遍路学」とあわせて受講することが望ましいが、先後は問わない。

遍路実習Ⅲ

一定期間日常を離れ、四国八十八ヶ所の一部を歩き遍路をすることで、座学では得られない、体験を通じた心身の覚醒を図ることを目的とする遍路実習で、実習Ⅰ・Ⅱに比べ、比較的長期の実習になる。聖地空間を歩く、巡拝するという行為が、さまざまな出会いの中で、「自己」の生に新たな気づきを与えるとすれば、それはどのような形で、どの時期に得られるものなのかを、見極めて欲しい。「遍路学」とあわせて受講することが望ましい

が、先後は問わない。

密教文化特殊研究Ⅰ(空海の書)

弘法大師空海は、若い頃から王羲之や晋唐の書を学び、正統な品格ある書から、入唐によって習得した飛白体や雑体書まで、実に幅広い書を数多く今日に残している。しかもそれらの書は自ら述べた書論に裏づけられている。そういう書人は空海をおいて他にない。日本書道史上で果たした功績はまことに大きい。本講義では、大師の書がどう形づくられていったのか、その学書を日本書道史を通して足跡をたどり、大師の書跡を鑑賞してその美を味わうとともに、空海の書を実習して、その書のすばらしさを体得してもらう。

密教文化特殊研究Ⅱ(空海論の現在)

弘法大師空海については、従来さまざまな視点と関心および分野から論じられ、評価されている。小説を含むさまざまなジャンルの書籍によって、空海について論じ、評価することを「空海論」と規定するならば、現在出版されているさまざまな空海論を参考に各自の空海論を考え、展開すること、およびその空海論を通して現代における自己のあり方を考えることがこの授業のねらいである。

密教文化特殊研究Ⅲ(日本密教美術)

仏教ではさまざまな仏たちが信仰され、その姿が仏像や仏画によって表されてきた。この講義では仏教美術の「イメージ」を読み解き、その意味や成立の過程を明らかにすることで、人々が何を信じ、どのような思いをそこに託したかを考察する。観音菩薩、不動明王、阿弥陀如来、弁才天などを取り上げる予定である。スクーリングでは、インドと日本の密教美術を中心に、実際の作品をスライド(パワーポイント)で紹介しながら、テキストの内容を解説する。また、高野山霊宝館での大宝蔵展(特別展)の見学を行う。国宝・重要文化財などの文化遺産を通して、高野山の文化の香りを感じていただきたい。

密教文化特殊研究Ⅳ(インド密教美術)

インド北東部のビハール、ベンガル地方と、その南に位置するオリッサの密教美術を概説する。これらはインドの仏教美術史の最終的な局面であると同時に、チベットやネパール、東南アジア諸国の仏教美術とも密接な関係を持つ。また、わが国の密教美術と共通の主題や様式の作品を数多く出土したことで注目される。この講義ではこれらの地域の密教美術をとりあげ、実際の作例を中心に、密教のパンテオンの構造、各尊格の図像上の特徴やその意味するもの、経典をはじめとする文献との関係などについて考察する。

密教文化特殊研究Ⅴ(チベットの密教と文化)

チベットは文明と呼ぶにふさわしい高度な文化を育んできた。チベット民族はこの文明を、インドから取り入れた仏教、とりわけ密教を核として築き上げた。のみならず、それを他の諸民族の間に輸出し、内陸アジアの広大な地域にチベット仏教圏を成立させた。この講義では、インドに生まれた密教がどのようにしてチベットの風土に受容され、変容を遂げてきたのかを、チベット文化のさまざまな分野に亘って分析・検討し、それを通じて日本と並んで密教の生きた伝統を保持するこの地域の文化

史的特徴を明らかにしてゆく。

密教文化特殊研究Ⅵ(密教と説話文学)

仏教説話を鑑賞することを主眼目とします。(1)仏教文学とは何か、仏教説話と世俗説話、(2)説話の魅力、(3)説話に登場する僧侶の慈悲行、(4)因果応報譚—『日本霊異記』の世界—、(5)鴨長明『発心集』の世界、(6)無住『沙石集』の世界などを考える。テキストはおもに僧侶を描く説話をとりあげています。たとえば叡実・玄賓・増賀などです。それらの人々を通して古代の僧侶の生き方を学びたいと考えています。現代に生きる人間(とりわけ僧侶・仏教に興味関心のある者)にとって、古代の様々な僧侶像を知ることが意義あることと信じています。

密教文化特殊研究Ⅶ(高野山の年中行事)

真言密教の霊場高野山金剛峯寺の年中行事は、平安時代後期の十一世紀になると一応のまとまりをみせ〔『高野雑日記』延久4年(1072)の記録〕、鎌倉時代になると整備され〔正応4年(1291)の『金剛峯寺年中行事帳』〕、室町時代末まで大体その伝統が受け継がれる。江戸時代になると「論義」が多く加わり、明治時代になると、これらが簡略化され、現代に至っている。その基礎を形成しているのは日本の民俗信仰である。この高野山の年中行事の大きな特徴の一つは、日本の民俗信仰が真言密教の立場で意味付けして密教儀礼の中に取り入れられていることである。この側面に視点を置いて学習してほしい。

密教文化特殊研究Ⅷ(悉曇)

悉曇とはインド古代文字の一つであるが、日本においては弘法大師空海によって密教と共に請来され、梵語(真言・陀羅尼や種子)を読み書きするための学問(声明業)あるいは書道として相承されて来た。慈雲尊者欽光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵字資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文(貝葉)を研究して中国風な変化の影響を離れた独自の書風(慈雲流)を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶものとする。

現代布教論

弘法大師空海の著述は、論文、随想、手紙、字典など多岐にわたります。千二百年前にこれだけ多量の文章が遺され、今なお研究が続けられているのは空海の右に出るものはいないでしょう。含蓄のある空海名言を選び、それを味わいながら、密教の世界、大師の生涯、文芸、人柄などを学びます。そして、空海名言を一般の人々に紹介し、感動を与える法話を創作して布教ができるようにすることがこの授業の目的です。

寺院経営と法律

寺院の多面的な活動を推進していくためには、その活動の土台であるところの宗教法人の管理・運営を、法律に従い、適正かつ円滑に行うことが必須の条件である。そこで、本講義では、宗教法人の管理・運営における法律上の諸問題について、宗教法人法を中心に講義する。なお、その際、宗教法人法の理解に必要なと思われる憲法20条信教の自由・政教分離の制度趣旨や、さらには法人の概念などについても触れることとする。

Ⅵ その他の事項

1. 宿泊の申込み

宿泊希望者は、高野山宿坊協会(TEL：0736-56-2616)へお問い合わせください。

2. 問い合わせおよび事務取扱い日

通信教育に関する不明点については以下のとおりお問い合わせください。

(1)来学および電話による問い合わせ

入学願書受付係 TEL：0736-56-2921

※事務取扱い時間は以下の通り。

	開室状況	開室時間
平日	開 室	9：00～17：00
土曜日・日曜日・祝日	休 室	
上記以外の事務取扱い休止日	・毎月21日 ・5月1日 開校記念日 ・6月15日 宗祖降誕日 ・8月13日～8月15日 お盆休み ・12月25日～1月7日 冬期休暇 ・大学院(通信教育課程)第2次選考日 ・通学課程選抜期間中 ・その他学校法人が定めた臨時休日	

(2)質問用紙による問い合わせ

- ・学生募集要項に同封されている所定の質問用紙に必要事項をご記入の上、郵便またはFAXでご質問ください。
- ・回答には数日を要しますので、余裕をもってご質問ください。
- ・単位認定に関するご質問は、郵送のみの受付となります。
- ・郵送の場合、返信用封筒(宛名明記、定形郵便代の切手貼付)を必ず同封してください。

宛先：〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385

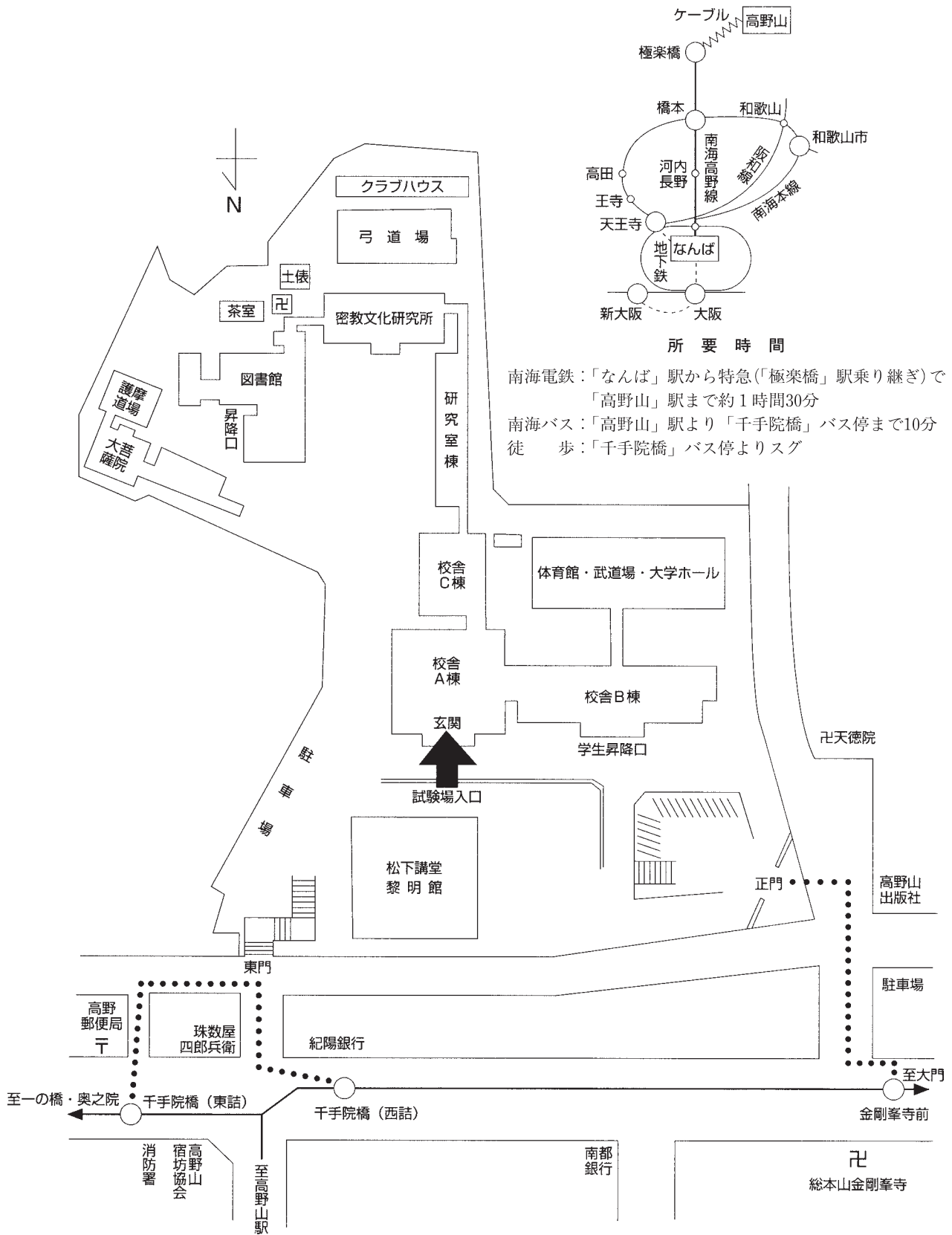
入学願書受付係

FAX：0736-56-2746

(3)電子メールによる問い合わせ

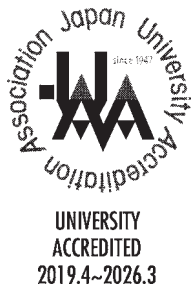
kikaku@koyasan-u.ac.jp

VII 高野山大学案内略図



VIII 個人情報の取扱について

1. 本学は入手した個人情報を「個人情報の保護に関する法律」に基づいて適正に利用します。
2. 出願、入学手続きにあたってお知らせいただいた個人情報は、ご本人の在学中以下の目的のために利用します。
 - ・教務運営
 - ・学生支援
 - ・授業料等に関する業務
3. 個人情報の一部を2に定めた利用目的の範囲内で、当該業務の委託を受けた業者に対して、個人情報の全部または一部を提供することがあります。
4. 本学では、個人情報を卒業後もしくは在学期間終了後も管理し、卒業生や在学期間のある方の親睦や互助に資することを利用目的の範囲内として、本学の同窓会組織である高野山大学同窓会と共同で利用させていただきます。
5. 個人情報は上記以外には原則として第三者に提供しません。ただし、法令、条例その他関係当局の要請等があった場合や、卒業生・在学期間のある方または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益など保護するために必要と判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に卒業生・在学期間のある方の個人情報を第三者に提供することがあります。あらかじめご了承ください。
6. 資料請求により、本学が知り得た個人情報は、ご請求いただいた資料の送付と、送付に関する連絡、およびその関連情報のお知らせに限って使用いたします。



【財団法人大学基準協会正会員校】

高野山大学

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385

TEL：0736-56-2921 FAX：0736-56-2746

高野山大学ホームページ <https://www.koyasan-u.ac.jp>

お問い合わせ 入学願書受付係 E-mail kikaku@koyasan-u.ac.jp